

解説 01 英語の発音とつづり字を考える

【課題のねらい】

この課題では、現在の英語のつづり字に対する2つの異なる主張を新聞記事やインターネットを利用し比較します。また実際に自分で英単語を集め、発音とつづり字にはどの程度規則性が存在するのか調べます。メディアを使った調査と簡単なデータ分析を通して、英語の発音とつづり字の関係についての理解を深めることがこの課題のねらいです。

【解説】

(1) 英語のつづり字を簡略化した方がよい理由として、まず読み書きが簡単になり学力があがるということが書かれています。これは英語母語話者だけでなく英語を母語以外の言語として学ぶ人達にもあてはまります。英語のつづり字が不規則である理由のひとつに、発音が変化したにも関わらずつづり字は古いままの形が残っていることがあげられます。例えば know の k や name の e は、昔は発音されていました。つづり字を簡略化した方がよいと考える人達は、発音にあわせて古いつづり字をそろそろアップデートしてもよい頃だと考えているわけです。言語は常に変化するものであり、つづり字を変えることもごく自然なことであると彼らは考えています。

反対に現在のつづり字を維持するべきだと考える人達は、email や chat で使われるつづり字はインフォーマルなものであり、子ども達や学習者はフォーマルな場面で使う正確なつづり字を覚えるべきであると考えています。他の問題点として、つづり字を変えると文字上は区別できる単語が同じつづりになってしまうことがあげられます。例えば hear と here、hour と our は区別できなくなります。さらに、つづり字を見ると単語の語源や歴史を知るヒントが得られますが、その情報も失われてしまいます。仮につづり字を簡略化することになったとしても、実用面での問題が多く予想されます。例えば、新しいつづり字方式をどの様に人々に伝え、定着させるのでしょうか。この辺りがつづり字の簡略化が実行に移されていない理由なのでしょう。

(2) 出題者が50語集めて調べてみたところ、ccの規則があてはまった確率は96%でした。皆さんもかなり高い数値がでたのではないのでしょうか。ccの規則は覚える価値があるといえそうです。参考までにccの規則(a)の単語としてはeccentric, accessory, accidentなどがあり、ccの規則(b)の単語としてはbroccoli, occasion, zucchini, occupyなどがあります。これらは全て規則通りに発音されます。出題者が見つけた例外は50語の内2つ、cappuccino(ccをちと読む)とsoccer(後ろがeであるのに/k/と読む)の2つだけでした。外来語に例外が多いのもひとつの傾向です。

(3) フォニックスの規則の例としては長い母音と短い母音の規則があります。この規則を理解すると、なぜtigerはタイガー、くまのプーさんのTiggerはティガーと読むのか説明ができるはずです。フォニックスの最大の問題点は、特に基本語に例外が多いことです。しかしフォニックスの規則があてはまる割合は単語数が増えるほど上がります。規則性を覚えると、初見の単語であっても辞書をひいたり人に聞いたりせずに、ある程度予想をして発音することができます。言葉は正しく発音し聞き取ることができて、はじめて使うことができます。これまで学習してきた英単語も実際に声にだして読み、発音とつづり字にどのような規則性があるのか観察してみてください。